

研修レポート

服部 太陽

一面の緑を広大な青空が包み込む、クイズランド、カブルチャー。そこで過ごした素晴らしい10日間を忘れることはできないでしょう。

初日、学校からホストファミリーの家に初めて向かう。車の窓を流れる高い木々や鮮やかな平屋建て、目に見える全てのものが新鮮で、非常に興奮したのを覚えています。

ホストファミリーとの、ある日の晩御飯。まだこの家に来たばかりで、未だに緊張が溶けていなかった僕に、ホストマザーや14歳と12歳の兄弟が色々な事を話してくれました。しかしその時、僕にとって非常に悔しかった出来事が起こりました。彼らのジョークを理解することができなかったのです。ホストマザーが何かを言って2人の兄弟が笑っても、僕は笑う事ができませんでした。そして、内容を理解できるまで、何度も何度も聞き直しました。そのため、楽しかった会話を傷つけてしまいました。

今回の研修中、ホームステイ先や現地の学校で何度もこのような経験をしました。そんな時、自分の英語力不足や対応力不足を痛感しました。しかしそれと同時に、現地の人の優しさや心の余裕に非常に心を動かされました。

事前研修の際、分かったふりは絶対にしてはいけないと習いました。僕は日本での普段の生活で、分かったふりを稀にしてしまいます。そのため、分からないことがあると何度も何度も分かるまで聞き直すように心掛けていました。

「Can you repeat that more slowly, please?」「Sorry, I can't understand.」研修が始まったばかりの頃、これらの言葉を使うことを非常に恐れていたのを覚えています。しかし、これらの言葉を使わずにオーストラリアの方々と会話することはもちろん不可能でした。ところが、それらの言葉を勇気を出して使ってみるほどに、その恐怖はいつの間にか何処かに消えていきました。初歩的なところが分からなかったり、同じ事を何度も聞いてしまったりしても、かなり困らせてしまいましたが、彼らは僕に対して絶対に嫌な顔をしませんでした。どんなことでも、会話の雰囲気壊してしまっても、笑顔で丁寧に教えてくれました。

しかし、同じような事を日本の友達や両親にしてしまうと、嫌な顔をされたり、伝える事を諦められたりされることが稀にあります。しかし、今回の研修中、そのような対応を取る人は、偶然かもしれませんが誰一人もいませんでした。オーストラリア人のこのような対応には驚きました。また、優しい彼らのおかげで、僕自身の英語リスニング力や理解力もかなり向上したように思います。彼らにはとても感謝しています。

学校生活においても、驚いた事や羨ましく思った事が沢山あります。その1つはセカンドブレイク存在です。

今回の研修で僕達が通った学校は50分の授業が計5時間。2,3時間目の間に45分のランチブレイク、4,5時間目の間に20分のセカンドブレイクがありました。日本で学生生活を送っている時に

は、セカンドブレイクというものを聞いたことがなかったので、初めて聞いた時、休み時間が多過ぎではないかと少し驚きました。しかし、いざ自分自身がその時間を過ごしてみると、それはとても楽しく、またワクワクするものでした。

現地の学校に通い始めてから2日後、バディーや他の現地の生徒と一緒に、ランチブレイクにタッチフットボールというスポーツをしました。僕はこのスポーツのルールを全く知りませんが、一緒にいた皆さんが丁寧に説明してくれました。そのため、ランチブレイクが終わる頃には、僕と一緒にこのスポーツを楽しむ事ができました。しかし、スポーツに時間を費やし過ぎたため、ランチブレイクにホストマザーが作ってくれた昼食を食べることができませんでした。しかし、心配する必要はありませんでした。セカンドブレイクがあります。長いランチブレイクに昼食を食べず、自分の好きな事を好きなだけ楽しんで、昼食ランチブレイクよりは短いセカンドブレイクで食べれば良いのです。もちろん、セカンドブレイクにもスポーツを楽しむ十分な時間があつたため、ランチブレイクで昼食と友達との会話を楽しむ事もできました。

オーストラリアの学校にはホームルーム教室がなく、かつ敷地がとても広く、スポーツなどの設備も豊富なため、休み時間は殆ど屋外で過ごしました。そのため、ランチブレイクやセカンドブレイクにスポーツを楽しむために、日本のようにわざわざ長い階段を降りる必要がありません。昼食も基本的に屋外で取るため、日本の高校と比べると、スポーツとの距離が非常に近かったように感じました。また、スポーツをするだけでなく、友達との会話を楽しんだり、図書室で本を読んだりしていた生徒達ももちろんいました。沢山の選択肢があるため、各人が長い休み時間を思い思いに楽しんでいるように見えました。

しかし、僕が毎日通っている岸和田高校では、昼休みにボールを使用してグラウンドや中庭で遊ぶ事が禁止され、敷地も非常に狭いため、運動部に所属していない生徒が思い切り体を動かせる機会が殆どありません。そのため、昼休みは、友達との会話は十分に楽しむ事ができますが、それ以外にやる事がほとんどありません。この経験を通して、オーストラリアのセカンドブレイクシステム、敷地の広さや設備の充実さを羨ましく思いました。

かなり話は変わってしまいましたが、オーストラリアから日本に帰国して1週間後、僕は1人で金沢方面を2泊3日の旅行をしました。1日目の夜、金沢市内のあるゲストハウスに宿泊しました。ここは料金が1泊¥2500ととても安く、また、ゲストハウスには外国人観光客が多く宿泊していると聞いたことがありました。そのため、オーストラリアで磨いてきた英語力を発揮できる絶好のチャンスになるかもしれないと期待して、日が下がった頃ゲストハウスの中に入り、チェックインを済ませました。

ゲストハウスには、僕以外に日本人の方が数人、台湾人が2人、スペイン人が2人宿泊していました。夜、ちゃぶ台を囲んでQさまを見ながら、台湾とスペインからの観光客の皆さんと過ごした時間は、とても楽しかったです。テレビの内容を英語で解説したり、4人からの日本についての質問に、英語でスムーズに答える事ができました。その上、皆さんが楽しそうに僕と話して下さったのでとても嬉しかったです。オーストラリアで身につける事ができた英語運用力や会話術、そして自信を初めて上手く利用する事ができました。

今回のオーストラリアでの研修で、自分では、自分自身は間違いなく成長できたと実感しています。現在、岸和田高校にはドイツから高校生から数十名の留学生が来てくれています。友達が彼らのバディーをしているので、沢山話せるように頑張ります！



↑ホストマザーが作ってくれたマフィン？ とても美味しかったです。



↑アスレチックフェスティバルの後のサッカー